



テーマ

Theme

自ら進んで交通安全に努める態度を身につけよう

学校・園名

School name

甲賀市立信楽中学校

講師等

Lecturer etc.

一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
滋賀支部

実施日

Date

令和2年 10月 15日

教科等

PTA活動（全校生徒）

授業
Class

PTA活動として、全校生徒を対象に「JAF交通安全教室」が実施されました。この日の学習は、「車の死角や制動距離、子どもの視野や反応などを理解し、自転車乗車時のヘルメット着用の義務等、自ら進んで交通安全に努める態度を身につける。」をめあてに設定し、主として自転車の安全走行を中心にした安全教室になるよう、自転車や自動車を使った授業が展開されました。

まず、PTA役員の方があいさつをされ、その後次のような形で授業が進みました。

(1)見通しの悪い交差点での自転車の乗り方

自転車に乗って見通しの悪い細い道路から幹線道路に出際の自転車の乗り方について、各学級の代表生徒が実演。その問題点をJAFの職員が指摘し全生徒で正しい乗り方を確認しました。

(2)自転車のブレーキ制動

自転車で直線道路を走行し、前方に設置された信号が赤になったらブレーキをかけ、止まるまでの制動距離を体験的にとらえました。時速8～10kmの自転車でも、ブレーキをかけてから4～5mは進む。赤の信号を認識し、ブレーキをかけるまでに約1秒を要することで、自転車でさえ「急に止まれない」ことをみんなで確認しました。

(3)事故の再現

JAFの方が、自動車とダミー人形を使い、生徒の目前で事故の様子を再現されました。自転車のブレーキ制動と同様、車も急に止まれない。飛び出した人形が、一旦空中に浮いた後、頭部から落下したことに注目し、頭部を守ることの大切さを強調されました。欧米では学生のヘルメット着用率が極めて高いこと。それには、「自分の命は自分で守る」という確たる心がけが関係していると力説されていました。命を失うことは当然あってはならないが、若い君たちが事故で運動機能を失うこともとても怖いことであると話され、ヘルメット着用を強調されました。また、シートベルトの未装着は、車外に身体ごと投げ出され、結果として命を落とすことにつながる。後部座席での装着率がまだまだ低い、全座席での着用の必要性を解かれました。

(4)自動車のブレーキ制動(車は急に止まれない！)

自転車を自動車に替えてブレーキ制動の実験をされました。時速40kmの自動車の制動距離は何メートルぐらいか。クラスごとに集まり、予想を立ててから実験を実施しました。実験では、約15mで自動車が制止しましたが、この数字は運転者の技術や年齢によっても大きく異なるとのことでした。だからこそ、「自分の命は自分で守ることが大切」だと再度強調されていました。

(5)死角体験

まず教諭を運転者役にし、赤いひもを使って運転者の死角がどれぐらいかを生徒たちにも分かるように場を設定しました。そして、運転者には内緒で死角になった部分に生徒を数名座らせ、そこに何人の生徒がいるかを運転者が当てるクイズをしました。結果として近い答えは出ましたが、運転者の左側の死角はとくにわかりにくいとのコメントでした。身近で一番車の出入りが多いコンビニの駐車場内での事故。その事故のほとんどがバック時の死角による事故であるとのことでした。

(6)みんなで交通安全宣言

学習の最後に、JAFの方から信楽中学校交通安全宣言をしようとして投げかけられ、「交通ルールを守ろう！」の後に生徒たちが「オー」と大きな声をあげる段取りでしたが、結果は小さな声での団結でした。この辺りの姿は中学生らしいものでしたが、理屈で分かっていることを今一度全校生徒で確かめたこの日の時間を大事にしてほしいと感じました。

感想
Impression

生徒より

Impression from

■活動後の生徒の感想

生徒に対する授業終了後のインタビューや感想文では、「車は急に止まれないことをわかってはいるけど、(交差点で)確認不足な時が多いです。」「今日の安全教室で、頭部を守ることの大切さを改めて感じました。」「車のミラーを見て、いちばんうしろが危ない場所だということを知りました。今日教えてもらったことを日常の暮らしでも生かしたいです。」「今日の交通安全教室では、車の怖さが分かりました。これからもしっかりルールを守って、安全に過ごせるようにしたいです。」などの感想が見られました。大人も子どもも、理屈では分かっていることをどのように日常化していくかが課題であり、今回のような授業は、保幼小中で系統立てて取り組むことも大切ではないかと、取材を通して感じました。

学校より

Impression from

■PTA生活指導部長より感想

車を運転する大人の視点と、主な交通手段として自転車に乗る中学生の視点の違いが分かる講演会でした。生徒たちがJAFの方の話聞いて、普段自転車を乗る姿を車の運転手はしっかり確認し停止してくれると思いがちですが、車からは見えない所も多く、確認してから止まるまでには何メートルも進んでしまうことを学びました。信楽は交通手段として、自家用車を利用する人が多くまた、観光地でもあり他府県からの車も多く走っています。いつ、どこで、なにが起こるか分かりません。ヘルメットをしっかりとかぶり、交通ルールを守り、自分の身は自分で守ることを考える良い機会になりました。

■教員の感想

<良かった点>

・ブロックや車など、実物を持ち込んでいただいたため、理解しやすかったです。
・話だけでなく様々な活動を盛り込んでいただいたので、生徒が興味を持って取り組みました。特にダミー人形を使用した場面や各クラスで考えるクイズが印象に残っていたようです。
・ヘルメット着用の重要性を体験できる内容でした。 ・話を聞く態度の指導もしていただけてありがたかったです。

<改善点>

・話を聞く向きが逆光だったので、まぶしくて前を向きづらかったようです。
・自転車を出してくれた生徒が実際に前で活動することを知らされていなかったので、戸惑っている子がいました。

講師より

Impression from

■たくさん生徒さんでしたが、まじめに参加してくれました。今回は、自転車の乗り方を中心に、車の特性などにもふれながらの学習でしたが、登下校も含めた日常生活の中で交通安全について改めて考える機会となれば幸いです。